

資料② 御報告：第一回「ともに未来を創るワーキンググループ」会議における各委員からの主な御意見について

※次期基本方針・総合戦略の策定に向けて、会議テーマ「くまもと新時代に向けた夢・課題について」を中心に自由闊達に御意見を伺ったところ、主に以下のような意見が出されました。

No	主な分野	氏名	所属・役職	意見No	意見・提案の概要【公表予定】
1	防災	早田 蛍	NPO法人 防災WEST 副理事長	11	特に熊本県の気象や地形の特性に精通した気象の専門家(気象防災アドバイザー)を活用することで、災害が発生する前に的確に防災情報を提供することができ、早い段階で防災体制を整えることができる。
				13	<u>小学生又は中学生までのどこかのタイミングで球磨川流域へ。球磨川流域の過去の災害や治水の歴史を学び、郷土愛を育む。</u> (水俣に学ぶ肥後っ子教室の防災パターン) ⇒球磨川リバーサイドミュージアム構想も見学体験のコースに入れる
2	交通	斉場 俊之	さいばーとれいん 代表	22	熊本には東西で都市圏を挟むように2つの鉄道(熊本電鉄、豊肥本線)がある。鉄道は定時性に優れ高速で輸送力も余裕があり、今の熊本に足りないものを持つ交通機関。1次交通網(鉄道)で熊本駅・熊本空港・中心市街地への高頻度・高速アクセスを提供し、御代志、セミコン、原水をつなぐ <u>セミコンアクセスバスレーン・専用道</u> での「車より速い移動手段」の構築し、さらに <u>豊肥本線は本数を増加させ</u> 、熊本の交通の「扇の柱」をつくり、2次交通網(バス・自転車・タクシー等)により駅からのアクセスと鉄軌道のない部分を面で補う。 一見、中心市街地を外れ使いにくく見える鉄道ですが、都市圏を包み込み、広い範囲にアクセスできるという良さもあります。最寄りの駅まで行けば待たずに電車に乗れ熊本駅や空港に行ける車やバスでの移動時間が減ると渋滞による遅延に巻き込まれず速いアクセスが実現します。 例えばこのように、既存の公共交通に県民のニーズに応えられるだけの利便を持たせ、公共交通を2倍にしていこうことが「車1割削減で渋滞半減」と両輪となつて必要となってくる対策。
3	交通	釘町 豊	(株)博報堂 テーマビジネスデザイン局 シニアビジネスプロデューサー 兼 宇土市地域活性化起業人	35	くまもと新時代といったときに、未来とはどんな未来なのか、どんな新時代なのかを、小学生でもわかることばで表現を。 <u>未来の主役である子供たちにも分かることばで伝え、自分ごと化し、子供たちに夢をもってもらいたい。</u>
				36	「幸せ」のモノサシはひとそれぞれ。 自分の生きたい生き方ができる「とき」「ところ」「つながり」であることで、一人ひとりの「幸せ」が高まっていくと思う。
4	子育て	秋岡 利明	NPOこどもサポート・みんなのおうち 事務局長	39	<u>こどもにとってどのような社会になるのかを示す視点が必要(こどもは将来に対して漠然とした不安を抱いている)。</u>
5	健康	石本 淳也	(一社)熊本県介護福祉士会 会長	42	介護の領域から発言すれば、超高齢化の進展と担い手不足の課題が中心となるが、介護や福祉の領域内で到底解決できるものではないと考える。「これからの高齢者介護」という切り口では無く、 <u>「これからの社会(県・市町村・生活圏域)」をどうしていくのか？という視点で、住民一人一人が「わがごと」として向き合う必要がある。</u>
				46	高齢者に限らず、あらゆる人が安心して暮らせる熊本にするため、どうするかということが大事であり、そのために <u>お隣の人に親切にする、誰にでも優しくできるという基本的なこと、福祉の観点を教育の中で取り上げ、根付かせていくことが必要。10年後20年後、熊本全体がやさしい人たちで溢れるという教育のあり方を。</u>

資料② 御報告：第一回「ともに未来を創るワーキンググループ」会議における各委員からの主な御意見について

※次期基本方針・総合戦略の策定に向けて、会議テーマ「くまもと新時代に向けた夢・課題について」を中心に自由闊達に御意見を伺ったところ、主に以下のような意見が出されました。

No	主な分野	氏名	所属・役職	意見No	意見・提案の概要【公表予定】
6	教育	中山 千春	(一社)sol 代表理事	47	ワーキングマザーが子育てをする上での制度は整ってきているが、自分自身で日中人を育てる(子育て)という尊い仕事を選択した両親に対しての支援はどれくらいあるのか？ <u>子育てを中心にしたいと選択した親子への支援が必要。</u>
				51	不登校児童数は全国で見ると熊本は上位。学校以外での子供たちの教育の確保が急務。多様性が注目される時代、教育の形も子供に合わせ、フリースクールなどへ県としても財政支援していくことが <u>子供たちの学習だけではない人間関係を学ぶ場</u> ・第3の居場所を保障するという教育の平等性を支えることとなる。
7	食・農林水畜産	永井 香織	エシカルプロダクツ(株) 代表取締役	57	有機農業など環境配慮型の農業推進は、環境保全の面でも重要。しかし、農業者にとっては収入が減るのではないかなど、不安がある。継続的な技術支援と収入面の不安を取り除き、安心して取り組めるような環境づくりが必要。
				62	農林畜水産業の担い手の確保のためには、 <u>担い手になり得る人たちに「農林畜水産の仕事がしたい」と思ってもらう事がまず必要</u> 。私は昨年、仲間と共に県内で農業に従事する女性の団体を立ち上げた。農業の明るい未来を作るために、現場に従事する人達がまずできる事は、自分たちが輝き、「この仕事をしていて良かった」と、ポジティブな言葉が自然と出てくるようにする事ではないかと思い、そのために何ができるのか、みんなで試行錯誤しながら出来る事から取り組んでいる。熊本県や市町村、農政局、その他農業に関係するあらゆる機関と、熊本の農林畜水産の発展を願う同士として繋がり、協力し、現場の立場から共に盛り上げていきたい。
8	地域づくり	大滝 祐輔	(一社)パレット 代表理事	63	甲佐町で、 <u>子どもを育てたい、暮らしたいと思ってもらえるようなひとづくり・まちづくりの推進</u> を目的に2018年より始めた自身の活動を通して、 ① <u>地域の魅力を伝えるには地域住民が魅力的であること</u> ②「 <u>余所者</u> 」こそ重要な存在であり、「余所者」を受け入れる余白が必要 ③ <u>地域づくりにおいて、行政と民間との連携は不可欠であると感じている。</u>
9	全般	田端 美華	(株)熊本日日新聞社 編集局次長・地域報道本部長・論説委員	68	人口減少、少子化対策、県内の南北格差といったテーマも引き続き大きなテーマです。これまでの施策の検証をあらためて行い、他の自治体で効果が出ているようなものは、積極的に採り入れてほしいと思います。 <u>合計特殊出生率や若者の県内就職率などの数値目標を示すことも検討してみてはいかがか。</u>
				72	<u>ジェンダー平等の観点からは、女性の上級管理職への登用や育成にも力を入れてほしい。</u>

資料② 御報告：第一回「ともに未来を創るワーキンググループ」会議における各委員からの主な御意見について

※次期基本方針・総合戦略の策定に向けて、会議テーマ「くまもと新時代に向けた夢・課題について」を中心に自由闊達に御意見を伺ったところ、主に以下のような意見が出されました。

No	主な分野	氏名	所属・役職	意見No	意見・提案の概要【公表予定】
10	経済	中原 功寛	やまがBASE(株) 代表取締役CEO	78	直近20年で全国8,500校以上が廃校となっている。少子高齢化を受け2011年以降人口減少に転じ、特に地方においては生産労働人口の減少が顕著となっている。生産労働人口の減少は、産業の衰退に繋がり、産業の衰退は働く場の喪失、すなわち生産労働人口減少に繋がる・・・という地方における悪循環の課題は熊本に戻り身をもって痛感。WIPOのイノベーションインデックスレポート2023では、日本は2021から3年連続13位に位置づけているが、サブインデックスでWIPOにより弱みとして評価されているものをいくつかピックアップすると①GDP対比の教育支出(104位)、②生産労働人口の開業率(99位/2022年)、③労働生産性成長率(111位)、等が挙げられる。これらの弱みは上述する地方における悪循環とも強い因果関係があると考える。
				82	中学生の声として、将来に対する漠然とした不安があり、自分が何をやりたいのかっていうのがわからないというものがあった。起業とは、自分がやりたいことをやるということであり、結局、自分で何をやりたいかわからないという教育を、今、してしまっているがゆえの結果である。子供たちが、いかに、自分がやりたいことを見つけて、将来に希望を持てるようなことができるかという、今までの資本主義的な貨幣経済に基づく人生の測り方からシフトするような動きが必要。
11	スポーツ・観光・文化	高田 大介	宇土太鼓文化研究所 代表／宇土市民会館 マネージャー	83	かつて多くの哲学者は文化芸術とは、人間が人間であるための本質だと述べている。 AIの進歩で常識が絶え間なく塗り替えられる現代、生身の人間が演じる実演芸術が持つ普遍的な魅力や、価値はより高まっていくと考える。 劇場法(2013年)や文化芸術基本法(2018年)など、近年公共ホールの役割をはじめ、文化・芸術に対する定義が広がっている。 (公財)熊本県立劇場ではそういった、最新の国の指針に沿った独自の事業計画をもとに事業に取り組まれているが、熊本県文化振興基本方針は2005年に一部改定後、アップデートがなされていない。 公共ホールでは指定管理制度の課題や、舞台技術者等の専門的人材の不足、公共施設の老朽化など諸課題が多くあるが、「文化・芸術」に対する県としての意識のアップデートにより、予算・マンパワー共に解決の糸口が見えてくるのではと感じている。
				84	どの地域でも、そこを掘ったら、誇れる宝物というものがある。その宝物に気付く視点を持つことが大事。
12	環境	神田 みゆき	NPO法人 SDGs Association 熊本 代表理事	90	シビックプライドの向上が課題。熊本の教材を使った授業の仕組み作りをしてはどうか。
				91	教職員の多忙化に重ね「社会に開かれた教育課程」が謳われており、学校と地域を繋ぐコーディネーターの確保が課題
13	経済	杉山 浩司	東海大学 文理融合学部 客員教授 外国法事務弁護士(ニューヨーク州法)	104	これまでは、環境の良い一地方都市としての位置付けであったが、TSMCが来て、半導体のサプライチェーンにおいて、世界的にも非常に重要な位置づけとなった。海外的な大企業、世界と伍していけるような国際ビジネスの司令塔組織が重要。
				107	外部からの高度人材(海外も含む)が定着するには、仕事と教育環境の両方が大事。イノベティブな仕事の機会と高度な教育環境が必須。 仕事について、スタートアップなどの面白い仕事ができることが大事。イノベーションは、これまでと違うタイプの人材が入ってきて化学反応が起こることによって生じると思われる。また、アカデミアも大事であり、産学連携を進めるべき。
				111	男女比や年齢構成も含め、多様性に富んだメンバーでこのWGが構成されていることは、「ともに未来を作る」、というこのWGの名前を実に体現したもの。 結論ありきではない本WGのアプローチ自体、「くまもと新時代」を作る、開かれた県の行政を象徴するものだと思う。